

「信じます。 信仰のない わたしを お助けください」¹」

(マルコ9章24節)

02

イエスはたくさん旅をして、多くの人々に出会い、それぞれが抱える問題に親身になって接します。このみ言葉の場面でイエスは、大変な症状にある息子を治してほしいと願う、一人の父親の叫びを受け止めています。この奇跡を実現するために、イエスは父親に一つのことを求めます。信仰を持つことです。

福音が示す逆説 パラドックス

自分の弱さや限界、脆さを出発点にして、神様とのつながりを築くこと。そして神様と一緒に、普遍的兄弟愛という最高のゴールにたどり着くこと。イエスはその生涯を通じて、奉仕の理念を示し、自らへりくだって末席を選ぶことを教えられました。

そうした生き方は、一見負け組に見える敗北を、勝利へと転換させる最良の生き方です。自己中心的な、いつかだけの成功ではなく、人々と共有する永続的な勝利へと。

1今月のみ言葉は、ドイツで諸教会に属する信者のグループが、一年間かけて生きようという事で選んだものと同じです。

フォコラーレ
focolare.org/japan

2020年3月ティーンズのいのちの言葉
<http://wordteens.focolare.org/ja/>



少し前から、信仰についていろいろ考えこんでいます。たくさんの疑問が湧いてきて、今まで確信していたことが、ガラガラと崩れています。祈るのをやめてしまい、自分はまだ、すべての人を愛する神というものを信じているか分かりません。



ロベルタ(16歳)

「信じるって、私たち一人ひとりにとってどういう意味なんだろう？」

キアラ・ルービックはあるとき話しました。



《信じるとは、神が私たちを見ていてくれる、愛してくれていると覚えることです。

私たちの祈りや言葉、行動の一つひとつ、悲しいことや嬉しいこと、どうでもよいようなことも、病気のときなど、何もかも神は見ているのだと、知っていることです。



もし神が愛なら、全面的に信頼するのは当然のことでしょう。

この信頼があるなら、私たちはもっと神と語り、自分のことや決心、計画を神に打ち明けることができます。私たちは皆、その神の愛に自分を委ねられます。必ず分かってもらえるし、慰められ、助けってもらえると確信できます。



主よ、あなたの愛に留まることができますように。

あなたが私を、私たちを愛して下さることを、信仰と体験によって、どんなときにも感じ、気づき、知ることができるようにして下さい、と祈りましょう。そして、愛を生きること。



ひたすら愛し続けるなら、私たちの信仰は本当に強められます。

私たちは神の愛を信じるだけでなく、まるで心の中でそれに触れるかのように、感じるができるでしょう。そして自分の周りで『奇跡』が起こるのを目にするでしょう。》²